

茗溪学園高等学校の皆様へ

お願い：この、スライドPDF版のご利用(再配布)について
配布は、関係の先生方と、お話しをお聞きの生徒さんに限定してください。
お話しそのものは限られた場での限定的なものであり、それ故に、広く公開
するに際しての図版(以前に別件で利用許諾頂いたもの)の再利用などの手続きを
省略しているゆえです。

古地図・歴史史料から見えてくる世界



江戸一目別図、(錦旗堂 文化9(1809)年、津山県立博物館蔵)
『地図中心』(日本地図学会)2009.12「地図と史料に見る安徳は源頼朝—江戸・東京のひとまちくらし」(長岡正利)より

長岡正利 (国土地理院客員研究員：(財)日本地図センター勤務)
2012.12.19、国土地理院「地図と測量の科学館」リネージュウムにて

今日のお話し(講義)の内容

- 前段として、日本における地図作成史—概説
行基図の時代から近・現代の地図まで。
- 江戸時代～明治以降の地図と史料に見る土地の変遷。
「江戸」から「東京」への変化と発展 — 簡単にご説明を
土地の変遷は、その自然条件にも支配されている。度重なる災害履歴も自然条件に関係する。
- 地図と史料(『江戸名所図会』など)にみる江戸や近郊の姿、人々の生活
そこに描かれたのどかな姿からは、「江戸時代が身分制度で縛られた世界」とは思えない等々。
- 若手の研究者としての将来像
近年のポストドクター問題なども率直に説明。(研究者として生きるのは容易ではない。)
- なお、幕末期以降の古地図と史料(今日のお話で登場の『江戸名所図会』など)については、
10数点を持参して展示、実物を見てもらいます。(ホンモノの風合いなどをお楽しみ下さい。)